

## 会 議 錄

名 称	令和7年度第1回 目黒区地域保健協議会
日 時	令和7年7月22日(火曜日) 午後1時30分から午後3時00分まで
場 所	目黒区総合庁舎4階 政策会議室
出 席 者	(委員) 西脇会長、渡邊副会長、山本委員、村上委員、菅野委員、福田委員、廣田委員、石原委員、遠藤委員、大塚委員、土居委員、小川委員、池田委員、百瀬委員、松原委員、竹内委員、今井委員、柳田委員、矢部委員、木村委員、永野委員、野村委員 (区側) 佐藤健康推進部長、香川健康推進課長、齋藤生活衛生課長、渡部保健予防課長、米澤地域保健課長
配付資料	令和7年度第1回目黒区地域保健協議会 次第 ○議事に関する資料 資料1 健康めぐろ推進プラン改定 資料2-1 健康づくり調査の実施について(案) 資料2-2 健康づくり調査(調査票) ○参考資料 目黒区地域保健協議会条例 目黒区地域保健協議会委員名簿
会議次第	1 開 会 2 健康推進部長挨拶 3 委員の紹介 4 区側出席者の紹介 5 会長・副会長の選出 6 議 事 (1) 健康めぐろ推進プランの改定について (2) 健康づくり調査の実施について(案) 7 そ の 他 8 閉 会
会議の結果 及び 主な発言	1 開 会  2 健康推進部長挨拶  3 委員の紹介  4 区側出席者の紹介  5 会長・副会長の選出 目黒区地域保健協議会条例第4条第1項に基づき、会長に西脇委員、副会長に渡邊委員が選出された。  6 議 事 (1) 健康めぐろ推進プランの改定について 資料1により健康推進課長が説明。

委員：3つの計画が1つに纏まることで、冊子のボリュームは純粋に3倍となるのか、もしくはコンパクトになるのか。

区側：焦点を絞り、わかりやすく図示をしてコンパクトなものにしていきたいが、計画の体系の見直しにより、衛生分野など計画の網羅する範囲が広がるため、ボリュームは現在と変わらないと考えている。

委員：過去の健康づくり調査は従来の計画に反映されていると考えてよいか。

区側：現在の健康めぐろ21に反映されている。今回実施する調査は、国の健康日本21で示された新たな視点も加えて、新たな計画にふさわしい調査内容に精査している。

## （2）健康づくり調査の実施について（案）

資料2-1、2-2により健康推進課長が説明。

委員：男女のトイレ格差を研究しており、その結果、男子トイレは女子トイレの1.76倍設置されていることがわかった。学校にも格差があると考え教育委員会に問い合わせたところ、小学校では1.39倍、中学校では1.42倍の差があった。アンケート調査では5,700人程度の回答者のうち9割が女性であり、「トイレで10分以上待つことがある」との回答が9割であった。十分に女性トイレが設置されていないことにより健康を害する恐れが考えられ、そうした問題が世の中にあることを知っています。

区側：トイレの問題は、公衆衛生の基本と思うので、以前にいただいたご意見は所管課に伝えており、今後も課題として認識しながら取組を検討していきたい。

委員：無作為抽出のため調査票が障害のある方のもとに届く可能性があるが、その方への一定の配慮について何か想定しているか。

区側：記入や入力が難しい場合は、お知り合いに補助をお願いしていただくことや、区にお問い合わせいただければ、丁寧に対応したい。

委員：年齢の上限は決めないのか。代理回答を認める場合は、調査票に記載する例もあるため検討してほしい。

区側：年齢の上限は決める。正しく統計を取るために本人による回答をお願いしているが、代理人の聞き取り等による回答も受け付ける。

委員：過去2回の調査の回答率を比較すると減少傾向にあるが、今回の調査実施にあたり区として何か議論はあったか。

区側：設問数を絞る、回答の再勧奨を行う予定である。回答率の向上のための検討は進めているが、他の調査でも厳しい状況であり、可能な限りの対策はしていきたい。

委員：質問内容が自身の健康への気付きにつながる内容のため、設問数は決して多いわけではないと思う。目黒区が行っているフレイル予防やシニア向けダンススクール等の案内やURLを健康づくりのスキームとして調査票に付けることで、健康づくりの見直しにつながるのではないか。

また、問9のフレイルの説明について、フレイルとは回復が見込まれる状態ではなく「加齢による心身の低下によって身体機能や認知機能が起こる状態」ではないか。

区側：本調査は健康づくりに関する啓発も兼ねているが、調査に案内等を掲載すると回答に偏りが生じる懸念があるため、計画改定時やガイドライン作成時に盛り込んでいけるよう検討したい。

フレイルについては、現在の表現が間違っているわけではないが、区民に少し伝わりづらい部分もあるため、表現は修正する。

	<p>委員：調査の対象は18歳以上だが、20歳未満は喫煙・飲酒が禁止されているので、喫煙・飲酒に関する設問の選択肢に「20歳未満である」等の項目を追加してはどうか。</p> <p>区側：前回調査は喫煙・飲酒の設問は20歳以上を対象としていたが、国が20歳未満の喫煙・飲酒をゼロにすることを目標に掲げており、より実態を把握するという視点から20歳未満の方についても今回の調査より回答対象としている。</p> <p>委員：回収率向上策として、区のウェブサイトに回答画面のリンクを公開して、抽出されなかつた方にも回答してもらってはどうか。</p> <p>区側：本調査は、偏りを避けるために全数調査ではなく層化無作為抽出で行うものであり、重複回答を防ぐという意味でも、調査票をウェブサイトに掲載することは難しい。調査の実施についてはウェブサイトで周知していきたい。</p> <p>委員：回収率はどの自治体も低い傾向にあり、都では三分の一程度、特に男性と若者で低いことが課題となっている。インターネット回答が可能であることと、勧奨督促することが重要だと思う。</p> <p>委員：設問数が43問はかなり多い印象を受ける。健康意識が高い方や高齢の方は協力するかもしれないが、回答率が3割程度であるならば設問数をもっと削るべきと思う。また、ジェンダーの観点から性別を回答することに抵抗がある人も考えられる中、最初の設問から性別を聞くことはいかがか。</p> <p>区側：前回の53問から43問まで、設問を精査して可能な限り絞ったため、これ以上の削減は難しい。</p> <p>性別については、男女別の傾向をとる必要があるが、性の多様性に配慮した表記として注釈を入れて対応している。</p> <p>委員：選択肢が細かいことが気になった。過去の調査で回答がなかった選択肢は削り、その他という選択肢や自由記述を設けることで負担感も減ると思うため次回以降の課題にしてほしい。</p> <p>区側：設問数を精査する中で選択肢までは絞り切れなかった部分もあるため、今回の結果を踏まえて次回以降精査していきたい。</p> <p>委員：若年層に健康診断の受診有無やかかりつけ医について聞いても、あまり意味がないのではないか。その分回答をスキップできれば回答率が上がるのではないか。</p> <p>区側：職場や学校で実施する健診等を想定して年齢を制限していない。年齢で絞るという視点は必要と思うため、今回の調査結果を踏まえて次回以降検討したい。</p> <p>委員：現在の回答状況がわかると先が見えて答えやすくなるのではないか。</p> <p>委託事業者：インターネット調査ではどこまで回答が終了しているかをパーセンテージで示す予定となっている。</p> <p>委員：無作為抽出ということだが、日本語が母国語でない方が対象となった場合、何か配慮を検討しているか。</p> <p>区側：やさしい日本語と3カ国語で記載した調査票の案内を同封しているので、希望者は申請いただければ、希望言語（英語、中国語、ハングル）の調査票をお送りする予定である。</p>
7	その他
8	閉会

以上